

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



清水・惣代
地区 ●
Soshiro

ふるさと の情景

VOLUME

18

清水・惣代地区
(棚田の田植え)



1



3



2

夏

が近づく6月。市内のあちこちで田植えの光景が見られます。田植えは俳句の季語にも使われ、夏の到来を感じさせる行事の一つです。

市

内では、昭和40年代ごろまで、集落に「結い」などと呼ばれる仕組みが存在し、人々が助け合って農作業にあたりました。現在、結いは消滅してしまいましたが、里山の一部では、近所同士で田植えや稲刈りなどを手伝う慣習が残っています。

棚

田が続く清水の惣代地区では、そんな里山の風景を維持しようと、NPO法人里山ひだまりファームが毎年、石仏小学校の児童を招き、米作り体験学習を実施しています。次代を担う子どもたちが地域の大人から農業の大変さや大切さを学ぶことで、地域の絆を再発見します。これも新たな形の結いといえるかもしれません。

時

代とともに、里山を取り巻く環境や農業への考え方は変化しましたが、新たな人のつながりが私たちの日常の風景を守り続けています。

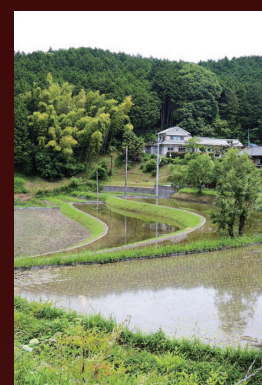
ふるさと のひと

NPO法人里山ひだまりファーム

坪本 好秀さん

昔、田植えは、村をあげて行う大がかりな作業でした。今では機械化が進み効率的になりましたが、一方で担い手が減り、休耕田や放棄地も増えてきています。

惣代の棚田は、脈々と続く農の営みがつくりあげた大切な日本文化の一つです。私たちNPO法人の活動がきっかけとなり、仲間同士で協業し、里山生活の知恵と技術を未来に伝え、この自然景観を次世代に残していきたいものです。



12 棚田で田植え体験。泥に足をとられて転びそうになる子も。3 田植え前の準備作業（代掻き）。

※惣代へは美加の台駅から徒歩で約30分。